

「戦争と人権」

玉川中学校 三年 松岡 芽依（まつおか めい）

「平和」の意味を辞書で調べると「戦争や紛争がなく、世の中が穏やかな状態にあること」となっています。つまり、平和の反対にあるのが戦争です。「戦争」は人が自由に生きる権利「人権」を奪うものだと私は学びました

私は、修学旅行で沖縄に行って平和学習をしました。主に学んだことは、沖縄戦で人々はガマと呼ばれる自然の洞窟に身を隠していたという事についてです。私はチビチリガマとシムクガマいう二つのガマへ行きました。

チビチリガマは、沖縄戦で避難している人々がここから出ると殺されること恐れて、集団自決が行われた場所です。驚き、怖さなどのいろいろな感情になりました。もし自分がそこにいたらどうしていただろうなと思いました。

シムクガマは、ハワイからの帰国者である比嘉平治と比嘉平三という二人のアメリカ軍と話し、騒いでいる避難している人々に説明し、多くの人が助かった場所です。多くの犠牲者を出したチビチリガマとは、対照的な結末になったと学びました。このガマでは実際に入り当時の人々が味わった雰囲気体験しました。何も見えない暗い場所です。アメリカ軍から隠れて窮屈な思いで暮らすのは本当に怖いと実感しました。

また、沖縄戦は一般住民の犠牲者が軍隊の犠牲者を上まわっていること、一般住民が戦争に参加させられていたということも知りました。これは、人が自由に生きる権利「人権」を侵害していることになりました。

そして、現在ウクライナの人々が戦争によって危険な状況にさらされています。恐ろしい様子をニュースなどで見えています。突然に始まった戦争に私も驚いています。このロシアとウクライナの戦争は一般

住民の人も巻き込まれているので、沖縄戦と似ているなと思いました。つまり、今も昔も同じことをして何もう変わっていないです。何も成長できていないと思いました。

また、いじめや差別も同じです。戦争と同じで人が自由に生きる権利「人権」を奪うものです。きっと今もどこかでいじめや差別を受けている人がいると思います。平和な世界になるためには、目をそらしてはいけないことだと思いました。

だから、私が世界中が平和になるためにできることを考えました。まずは、難民への支援や募金、被災地への援助活動です。また、戦争、いじめや差別はしてはいけないと頭においておくこと。相手の立場にもなって物事を考えること。何事も一度話し合ってみること。なども行います。他にもたくさんありますが、一番大切だと思うのが今ある小さなことも当たり前だと思わず、小さな幸せにも感謝をすることです。そうすれば、戦争もいじめも差別も起こらないと思います。簡単なことだと思います。そうなれば、少しずつ周りは平和で笑顔があふれていくと思います。そして、自分自身も感謝をしっかりと伝えていこうと改めて思いました。

私は、沖縄での平和学習でいろいろなことを聞いて、体験して、戦争もいじめも差別もしてはいけないものだと改めて学びました。「人権」を奪うようなことをしても何の意味にもならない。平和になれば笑顔が生まれると改めて学びました。だから、私はできることをして、一人一人の「人権」が当たり前前に守られる日が来ることを願っています。